

特 許 協 力 条 約

PCT

国際予備審査報告

(法第12条、法施行規則第56条)
[PCT36条及びPCT規則70]

REC'D 06 FEB 2004

WIPO PCT

出願人又は代理人 の書類記号 TO114PCT	今後の手続きについては、国際予備審査報告の送付通知(様式PCT/ IPEA/416)を参照すること。		
国際出願番号 PCT/JPO3/08916	国際出願日 (日.月.年) 14.07.03	優先日 (日.月.年) 15.07.02	
国際特許分類(IPC) Int. Cl ⁷ G02B6/38			
出願人(氏名又は名称) 株式会社 巴川製紙所			

1. 国際予備審査機関が作成したこの国際予備審査報告を法施行規則第57条(PCT36条)の規定に従い送付する。
2. この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で 5 ページからなる。
- ☒ この国際予備審査報告には、附属書類、つまり補正されて、この報告の基礎とされた及び/又はこの国際予備審査機関に対してした訂正を含む明細書、請求の範囲及び/又は図面も添付されている。
(PCT規則70.16及びPCT実施細則第607号参照)
この附属書類は、全部で 4 ページである。

3. この国際予備審査報告は、次の内容を含む。
- I ☒ 国際予備審査報告の基礎
- II ☐ 優先権
- III ☐ 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成
- IV ☒ 発明の単一性の欠如
- V ☒ PCT35条(2)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
- VI ☐ ある種の引用文献
- VII ☐ 国際出願の不備
- VIII ☐ 国際出願に対する意見

国際予備審査の請求書を受理した日 14.07.03	国際予備審査報告を作成した日 14.01.04		
名称及びあて先 日本国特許庁(IPEA/JP) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官(権限のある職員) 吉田英一 印	2K	9124
電話番号 03-3581-1101 内線 3255			

I. 国際予備審査報告の基礎

1. この国際予備審査報告は下記の出願書類に基づいて作成された。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に
応答するために提出された差し替え用紙は、この報告書において「出願時」とし、本報告書には添付しない。
PCT規則70.16, 70.17)

☐ 出願時の国際出願書類

- ☒ 明細書 第 1-21 ページ、 出願時に提出されたもの
明細書 第 _____ ページ、 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの
明細書 第 _____ ページ、 _____ 付の書簡と共に提出されたもの

- ☒ 請求の範囲 第 2, 6, 7, 9, 12-16 項、 出願時に提出されたもの
請求の範囲 第 _____ 項、 PCT19条の規定に基づき補正されたもの
請求の範囲 第 _____ 項、 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの
請求の範囲 第 1, 3-5, 8, 10-11 項、 25.12.03 付の書簡と共に提出されたもの

- ☒ 図面 第 1-39 ページ/図、 出願時に提出されたもの
図面 第 _____ ページ/図、 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの
図面 第 _____ ページ/図、 _____ 付の書簡と共に提出されたもの

- ☐ 明細書の配列表の部分 第 _____ ページ、 出願時に提出されたもの
明細書の配列表の部分 第 _____ ページ、 国際予備審査の請求書と共に提出されたもの
明細書の配列表の部分 第 _____ ページ、 _____ 付の書簡と共に提出されたもの

2. 上記の出願書類の言語は、下記に示す場合を除くほか、この国際出願の言語である。

上記の書類は、下記の言語である _____ 語である。

- ☐ 国際調査のために提出されたPCT規則23.1(b)にいう翻訳文の言語
☐ PCT規則48.3(b)にいう国際公開の言語
☐ 国際予備審査のために提出されたPCT規則55.2または55.3にいう翻訳文の言語

3. この国際出願は、ヌクレオチド又はアミノ酸配列を含んでおり、次の配列表に基づき国際予備審査報告を行った。

- ☐ この国際出願に含まれる書面による配列表
☐ この国際出願と共に提出された磁気ディスクによる配列表
☐ 出願後に、この国際予備審査(または調査)機関に提出された書面による配列表
☐ 出願後に、この国際予備審査(または調査)機関に提出された磁気ディスクによる配列表
☐ 出願後に提出した書面による配列表が出願時における国際出願の開示の範囲を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった
☐ 書面による配列表に記載した配列と磁気ディスクによる配列表に記載した配列が同一である旨の陳述書の提出があった。

4. 補正により、下記の書類が削除された。

- ☐ 明細書 第 _____ ページ
☐ 請求の範囲 第 _____ 項
☐ 図面 図面の第 _____ ページ/図

5. ☐ この国際予備審査報告は、補充欄に示したように、補正が出願時における開示の範囲を越えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c) この補正を含む差し替え用紙は上記1.における判断の際に考慮しなければならない、本報告に添付する。)

IV. 発明の単一性の欠如

1. 請求の範囲の減縮又は追加手数料の納付の求めに対して、出願人は、

- ☐ 請求の範囲を減縮した。
- ☒ 追加手数料を納付した。
- ☐ 追加手数料の納付と共に異議を申立てた。
- ☐ 請求の範囲の減縮も、追加手数料の納付もしなかった。

2. ☐ 国際予備審査機関は、次の理由により発明の単一性の要件を満たしていないと判断したが、PCT規則68.1の規定に従い、請求の範囲の減縮及び追加手数料の納付を出願人に求めないこととした。

3. 国際予備審査機関は、PCT規則13.1、13.2及び13.3に規定する発明の単一性を次のように判断する。

- ☐ 満足する。
- ☒ 以下の理由により満足しない。

請求の範囲1-9、11-16の「特別な技術的特徴」は「光ファイバが挿入されたプラグが、光ファイバの軸方向に対して垂直方向よりアダプタに装着されること」に関するものである。請求の範囲10の「特別な技術的特徴」は「プラグのアダプタへの装着後にアダプタの貫通孔からプラグの貫通孔にガイドピンが挿入されること」に関するものである。

これらの発明は、一又は二以上の同一又は対応する特別な技術的特徴を含む技術的な関係にないから、単一の一般的発明概念を形成するように連関しているものとは認められない。

4. したがって、この国際予備審査報告書を作成するに際して、国際出願の次の部分を、国際予備審査の対象にした。

- ☒ すべての部分
- ☐ 請求の範囲 _____ に関する部分

V. 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条(PCT35条(2))に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性(N)	請求の範囲	2, 4-10, 12-13, 15-16	有
	請求の範囲	1, 3, 11, 14	無
進歩性(IS)	請求の範囲	5-7, 12-13, 15	有
	請求の範囲	1-4, 8-11, 14, 16	無
産業上の利用可能性(IA)	請求の範囲	1-16	有
	請求の範囲		無

2. 文献及び説明(PCT規則70.7)

- 文献1: JP 59-157605 A(富士通株式会社)1984.09.07, 全文, 全図
 文献2: JP 3-60402 B2(富士通株式会社)1991.09.13, 全文, 全図
 文献3: JP 1-51808 B2(富士通株式会社)1989.11.06, 第2頁左欄第22行目-第2頁右欄第18行目, 第2図
 文献4: JP 6-222245 A(住友電気工業株式会社)1994.08.12, 全文, 全図
 文献5: US 5838856 A(Daewoo Telecom, Ltd.)1998.11.17, 第3欄第21-31行目, 第3欄第44-53行目, 第3欄第62行目-第4欄第14行目, FIG. 3, 4, 9, 11, 12

請求の範囲1, 3, 11

文献1に記載の発明の「整列部材12」が、請求の範囲1, 3, 11に記載の発明の「プラグ」に相当する。また、文献3に記載の発明の「整列基板6」及び「光ファイバ配列基板4」が、それぞれ請求の範囲1, 3, 11に記載の発明の「アダプタ」及び「プラグ」に相当する。文献1-3に記載の発明は、2つのプラグが光ファイバの軸方向に対して垂直方向よりアダプタにそれぞれ個々に装着可能なものであり、これら文献1-3から、請求の範囲1, 3, 11に記載された発明は新規性を有さない。

請求の範囲2, 8-9

請求の範囲2, 8-9に記載の発明は、文献1-3より進歩性を有しない。ラッチによる固定は周知慣用であるから、プラグとアダプタとの固定をラッチにより行うことは、当業者であれば容易に想到し得るものである。

請求の範囲4, 10

請求の範囲4, 10に記載の発明と文献1-3に記載の発明とは、次の点で相違する。前者では、プラグのアダプタへの装着後、アダプタの貫通孔からプラグの貫通孔に挿入されたガイドピンにてプラグをアダプタに固定するのに対して、後者では、そのようなガイドピンを有していない点

文献4には、アダプタ(ハウジング11)の貫通孔からプラグ(光コネクタ22)の貫通孔に挿入されたガイドピン(加圧ピン15)にてプラグをアダプタに固定することが記載されている。文献1-3に記載の発明に文献4の上記事項を適用して、請求の範囲4, 10に記載の発明とすることは、当業者であれば容易に想到し得るものである。

補充欄 (いずれかの欄の大きさが足りない場合に使用すること)

第 V. 2 欄の続き

請求の範囲 1 4

文献 5 に記載の発明の「alignment member」が、請求の範囲 1 4 に記載の発明の「フェルール位置合わせ部材」に相当する。文献 5 に記載の発明は請求の範囲 1 4 に記載された工程すべてを有するものなので、請求の範囲 1 4 に記載された発明は、文献 5 から新規性を有さない。

請求の範囲 1 6

プラグが複数のフェルールを備えたものとするのは、必要に応じて適宜行うことであり、当業者であれば容易に想到し得るものである。

請求の範囲 5 - 7

請求の範囲 5 - 7 に記載された発明は、文献 1 - 5 に対して進歩性を有する。文献 1 - 5 には、2 つのプラグが光ファイバの軸方向に対して垂直方向よりアダプタにそれぞれ個々に装着可能な光ファイバ接続構造において、プラグのアダプタへの装着後にフェルール位置合わせ部材をプラグのフェルールに対してスライド可能とした点が記載されておらず、しかもその点は当業者といえども容易に想到し得ないものである。

請求の範囲 1 2 - 1 3

請求の範囲 1 2 - 1 3 に記載された発明は、文献 1 - 5 に対して進歩性を有する。文献 1 - 5 には、ガイドピンを各プラグの貫通孔に予め挿入した後、各プラグを対向させ、アダプタの一端部から他のガイドピンをアダプタの貫通孔に挿入して予め挿入されていたガイドピンを押し込むことにより、プラグをアダプタに固定する点が記載されておらず、しかもその点は当業者といえども容易に想到し得ないものである。

請求の範囲 1 5

請求の範囲 1 5 に記載された発明は、文献 1 - 5 に対して進歩性を有する。文献 1 - 5 には、フェルール位置合わせ部材を予めアダプタに装着した点が記載されておらず、しかもその点は当業者といえども容易に想到し得ないものである。